

平成 27 年度 検証結果報告書（東京工業大学）

動物実験に関する検証結果報告書

（東京工業大学）

動物実験に関する外部検証事業

（国立大学法人動物実験施設協議会・公私立大学実験動物施設協議会）

平成 28 年 3 月

平成 28 年 3 月 29 日

東京工業大学
学長 三島 良直 殿

貴機関における動物実験の実施体制に関して、提出された自己点検・評価結果報告書に対する検証結果を通知します。

国立大学法人動物実験施設協議会・公私立大学実験動物施設協議会
動物実験に関する外部検証事業
検証委員会 委員長



対象機関：東京工業大学
申請年月日：平 27 年 7 月 29 日
訪問調査年月日：平成 27 年 11 月 24 日
調査員：松下 悟（放射線医学総合研究所）
荒田 悟（昭和大学）

検証の総評

東京工業大学は前身が 1881 年に創立された歴史ある日本トップクラスの理工系大学であり、現在は 3 学部と大学院 6 研究科ならびに 50 以上の附置研究所や共通施設などから構成されている。動物実験は、ライフサイエンス研究をおこなう生命理工学部で主に実施されている。

学長（機関の長）のもと、文部科学省の基本指針に則した東京工業大学動物実験管理規則と動物実験委員会が整備され、動物実験は環境省の飼養保管基準に則して 3R の原則を確保しつつ適正に実施されている。なかでも、動物実験計画書の審査の厳格化と結果報告書等の管理を徹底するため、部局単位の動物実験委員会を一元化するなど、自己点検・評価において判明した課題を翌年度の改善目標に設定し、それを着実に達成していく姿勢は外部検証の趣旨とも合致し高く評価できる。また、教育訓練を学部 3 年次の講義で行うとともに留学生に対して英語でも実施している点、さらに、微生物モニタリング検査や生殖工学技術サービスを実施して動物福祉に貢献し、動物慰霊祭を行って動物愛護精神の醸成に努めている点も高く評価できる。

一方で、動物実験委員会における専門委員会での事前審査に関することが明文化されておらず、細則または内規等の整備が必要である。また、動物施設は建設後 20 年が経過して現在のニーズにそぐわない面が生ずるとともに、空調設備の老朽化対策や飼育スペースの改善・拡充などいくつか早急な解決が困難な課題もみられる。全飼養保管施設をセンターとして学内で一元化するなど、今後大学としてソフト・ハード両面からの改善・整備について計画的に取り組むことを希望する。

検証結果

I. 規程及び体制等の整備状況

1. 機関内規程

1) 機関による自己点検・評価結果
<input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する機関内規程が定められている。 <input type="checkbox"/> 機関内規程は定められているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 機関内規程が定められていない。
2) 自己点検・評価の妥当性
文部科学省の基本指針に沿った「国立大学法人東京工業大学動物実験等管理規則（以下、「学内規則」と略）が定められている。よって、自己点検・評価の結果は、妥当である。
3) 検証の結果
<input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する機関内規程が定められている。 <input type="checkbox"/> 機関内規程は定められているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 機関内規程が定められていない。
4) 改善に向けた意見
特になし。

2. 動物実験委員会

1) 機関による自己点検・評価結果
<input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する動物実験委員会が置かれている。 <input type="checkbox"/> 動物実験委員会は置かれているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 動物実験委員会は置かれていない。
2) 自己点検・評価の妥当性
基本指針と学内規則に則した動物実験委員会が設置されており、動物実験委員会による審議の前に、小動物とサルそれぞれの専門委員会によって動物実験計画書は事前に審査されている。よって、自己点検・評価の結果は、妥当である。
3) 検証の結果
<input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する動物実験委員会が置かれている。 <input type="checkbox"/> 動物実験委員会は置かれているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 動物実験委員会は置かれていない。
4) 改善に向けた意見
小動物とサルの専門委員会による事前の動物実験計画書の審査方法について、細則や内規等で

明文化されたい。

3. 動物実験の実施体制

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合し、動物実験の実施体制が定められている。
- 動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 動物実験の実施体制が定められていない。

2) 自己点検・評価の妥当性

平成 25 年度の次年度改善方針である、法令遵守を必要とする動物実験計画を容易に確認できる体制ならびに教育訓練受講の確認を確実にできる体制整備は、書式の変更により平成 26 年度に達成された。また、平成 26 年度の次年度改善方針である、小動物の動物実験計画の学長承認過程の厳格化は、調査時点で達成されていた。よって、検証の結果、「基本指針に適合し、動物実験の実施体制が定められている。」とする。

3) 検証の結果

- 基本指針に適合し、動物実験の実施体制が定められている。
- 動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 動物実験の実施体制が定められていない。

4) 改善に向けた意見

毎年動物実験計画の審査過程を見直してよりよい実施体制を求めている姿勢は高く評価でき、今後も継続されることを希望する。

4. 安全管理を要する動物実験の実施体制

1) 機関による自己点検・評価結果

- 該当する動物実験の実施体制が定められている。
- 該当する動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 該当する動物実験の実施体制が定められていない。
- 該当する動物実験は、行われていない。

2) 自己点検・評価の妥当性

平成 25 年度の次年度改善方針を受け、平成 26 年度に遺伝子組換え実験に関する審査をよりの確に行える体制を整備した。また、有害化学物質投与動物実験、放射性物質投与動物実験については、学内の規則類や手引きに基づき、所掌部署の管理のもと、動物実験委員会と連携をとりながら適正な実施体制がとられている。よって、自己点検・評価の結果は、妥当である。

3) 検証の結果

<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/> 該当する動物実験の実施体制が定められている。<input type="checkbox"/> 該当する動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。<input type="checkbox"/> 該当する動物実験の実施体制が定められていない。<input type="checkbox"/> 該当する動物実験は、行われていない。
4) 改善に向けた意見 各飼養保管施設のマニュアルに、安全管理を要する動物実験の事項を盛り込むことなどを検討されたい。

5. 実験動物の飼養保管の体制

1) 機関による自己点検・評価結果 <ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。<input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。<input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検・評価の妥当性 学内規則に、学長が飼養保管施設の承認を行うことが定められており、各施設に実験動物管理者が置かれ、さらにマニュアルも整備されている。逸走時や緊急時の対応マニュアルも定められている。よって、自己点検・評価の結果は、妥当である。
3) 検証の結果 <ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。<input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。<input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
4) 改善に向けた意見 特になし。

6. その他（動物実験の実施体制において、特記すべき取り組み及びその点検・評価結果）

意見 動物実験計画書の学長承認の過程をより厳格に行う体制に改善したこと、および法令遵守を必要とする動物実験について動物実験計画書を改良して的確に審査できる体制を整備したことは高く評価できる。一方、管理者等の教育訓練項目や専門委員会による動物実験計画書の事前審査などに関し、細則や内規等による明文化を検討されたい。

Ⅱ. 実施状況

1. 動物実験委員会

1) 機関による自己点検・評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に機能している。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検・評価の妥当性 平成 26 年度の動物実験は新規動物実験 13 件および変更申請 18 件が委員会で審査された。審議では委員からのコメントが記録保存され、学内規則通り適正な過程を経て学長により承認されている。議事録も適正に保管されている。よって、自己点検・評価の結果は、妥当である。
3) 検証の結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に機能している。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
4) 改善に向けた意見 動物実験委員会による動物実験計画書の電子媒体による最終承認について、委員間でコメント等が共有できるよう工夫されたい。

2. 動物実験の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に動物実験が実施されている。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検・評価の妥当性 平成 26 年度は 44 件の動物実験が実施された。実験責任者が記載する動物実験自己点検表および実施結果報告書も 100%提出され、動物実験は特に問題はなく実行されている。よって、自己点検・評価の結果は、妥当である。
3) 検証の結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に動物実験が実施されている。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
4) 改善に向けた意見 特になし。

3. 安全管理を要する動物実験の実施状況

<p>1) 機関による自己点検・評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/> 該当する動物実験が適正に実施されている。<input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。<input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。<input type="checkbox"/> 該当する動物実験は行われていない
<p>2) 自己点検・評価の妥当性</p> <p>動物実験において事故等の報告はなく、安全設備も整備され、さらに法的手続きが必要な実験については動物実験委員会で把握のうえ適正に実施されており、動物実験計画書に組換え動物実験の承認番号を記すなど委員会間での情報共有もなされている。また、有害化学物質投与動物実験については、学内の規則や手引きに基づき、所掌部署と連携をとりながら適正に実施されている。よって、自己点検・評価の結果は、妥当である。</p>
<p>3) 検証の結果</p> <ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/> 該当する動物実験が適正に実施されている。<input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。<input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。<input type="checkbox"/> 該当する動物実験は行われていない
<p>4) 改善に向けた意見</p> <p>特になし。</p>

4. 実験動物の飼養保管状況

<p>1) 機関による自己点検・評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。<input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。<input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
<p>2) 自己点検・評価の妥当性</p> <p>4 か所の飼養保管施設においてマニュアルが整備され、適正に保管されていることを自己点検票とともに現場視察で確認できた。また、平成 27 年度中の改善方針とした微生物モニタリングも調査時点において全施設で実行され、バイオ研究基盤支援総合センターでは検査体制が整備されている。よって、自己点検・評価の結果は、妥当である。</p>
<p>3) 検証の結果</p> <ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。<input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。

多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

細則や内規等を作成して、微生物モニタリング検査の実施回数や委員会への報告などの学内統一体制を検討されたい。サルに関しては、多くの人獣共通感染症を有することから引き続き衛生管理に留意して飼養保管を実施されたい。

5. 施設等の維持管理の状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

各施設の出入り口はカード式電子キーシステムや指紋照合システムで管理されており、現場視察や記録によって施設は問題なく維持管理されていると確認できた。一方、遺伝子組換え動物実験に関する表示や標識が各施設間で均一でなく、バイオ研究基盤支援総合センターにおいては、空調設備の老朽化対策、一部の飼育室の騒音対策、マウス飼育スペースの拡充、および SPF レベルの飼育のための設備・飼育スペースならびに動物実験室の整備などが課題として残っている。よって、自己点検・評価の結果は、妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

自己点検・評価で取り上げた課題に対し、全飼養保管施設を統合したセンターに一元化するなど、大学として適切な措置を講じることを検討されたい。

6. 教育訓練の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

平成 26 年度は 8 回の教育訓練が実施されて 112 名が受講しており、教育訓練項目も適正でその記録も保存されている。また、学部 3 年次に生命工学関連法規概論を講義し、3 分の 2 の学生

が受講しているのみならず、平成 20 年度より留学生向けの英語版教育訓練を複数回実施し、毎年約 15 名が受講している。よって、自己点検・評価の結果は、妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

サルが飼育されていることから、人獣共通感染症にかかる知識の習得について実質的には実行されているものの、細則や内規等で教育訓練項目のひとつとして明文化することを検討されたい。

7. 自己点検・評価、情報公開

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

学長は動物実験委員会に自己点検・評価を行わせてその結果を HP に公開している。特に、自己点検・評価に記載した対策について、次年度には改善するという姿勢が平成 23 年度からみられ、自己点検・評価が有効に活用されている点は高く評価できる。また、情報公開もほぼ十分な内容が公開されている。よって、自己点検・評価の結果は、妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

主要な飼養保管施設の名称について公開されたい。

8. その他

（動物実験の実施状況において、機関特有の点検・評価事項及びその結果）

意見

特になし。